

## 行政説明会あいさつ

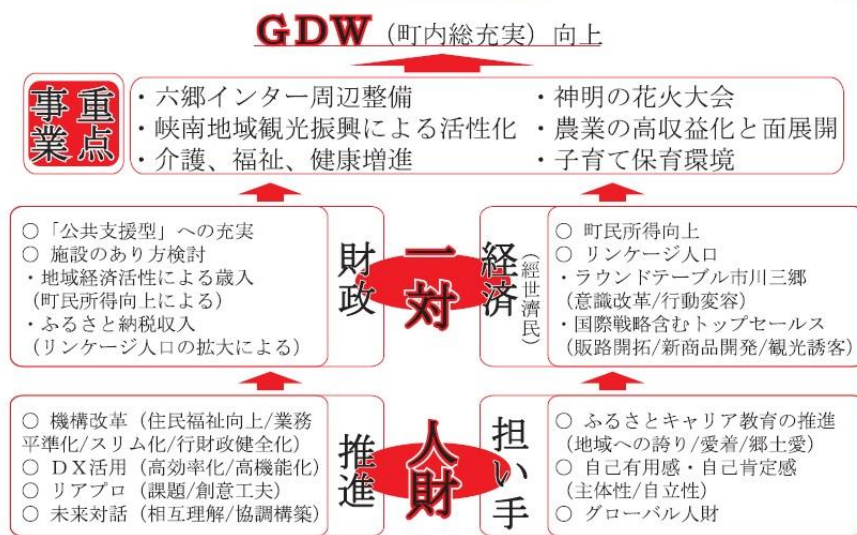
令和5年4月18～20日

本日は行政説明会を開催いたしましたところ、夜分にもかかわらずご参集賜り厚くお礼申し上げます。日頃より、町政進展のためご理解とご協力を賜り重ねてお礼申し上げます。

長年の間、区長様として地域と行政のパイプ役としてご尽力を賜りました退職される区長さまには、深甚なる経緯と感謝を申し上げます。また、引き続き、新たに区長様としてご尽力いただける方々に置かれましてはよろしくお願い申し上げます。

市川三郷町の向かうべき姿を「令和五年度、新しい地域経営」としてお示いたしました。GDW向上（町民総充実）を目指し行政推進していきたいと考えております。「GDW（Gross Domestic Well-being）」のWell-beingは、「幸福度」とか「幸せ」という意味です。地域への誇りや愛着を持ち、住んでいる意義を実感するということが、幸福度につながる一歩だと思います。それに向けての方向性であります。





重点事業として6項目掲げ、全庁体制で取り組んでまいりたいと考えております。「介護、福祉、健康増進」、「子育て保育環境」につきましては、今回の機構改革での再編によるもので、コンピューターシステムの導入（DX推進）と同期しながら町民福祉の向上と職員の働き方改革を進め、重点的に全庁体制で行政推進していかなくてはならないと思っています。

平成17年10月、市川三郷町誕生以来、社会環境や福祉行政は大きく進展しております。しかしながら本町行政運営体制は旧態のままであり多様な支援、高効率を求められる現代において機能的な行政組織であるべきと認識しています。

介護課、福祉課、いきいき健康課につきましてはそれぞれの役割分担を明確にして強化するとともに横連携にも視野に入れ町民福祉の向上に取り組んでまいります。

また、「子ども家庭庁」の誕生に伴い、公立保育所4園、私立こども園5園を有する本町としては子育て環境を一元的にお支えしていくことが合理的であることから、新たに「子育て支援課」としてスタートいたします。それぞれ、町民と直接接する機会の多い重要な所管でもあり、町民福祉向上のため事業の目的を常に意識し効率的な業務が推進できるよう執行体制を構築いたしました。今までの知識や経験を新体制の中で発揮できるよう職員一丸となって町政を推進してまいります。



生活支援体制整備事業



子育て支援センター

六郷 IC 周辺整備につきましては、昨年度末、官民連携の「六郷インターチェンジ開発推進協議会」を私が会長となり設立することができました。町といたしましてもその推進に全庁横断的に参画しみスピード感を以て取り組んでまいります。

神明の花火大会につきましては、今回 35 回となります。前回から信玄公祭りとのコラボする中、信玄公祭りは50回を迎えるということでもどちらも節目の年です。さらにオマーン大使館との交流からオマーン大使もおいでになる予定で、全庁的な取り組みとして国際発信する機会になると考えております。



中部横断道 六郷インターチェンジ



神明の花火大会

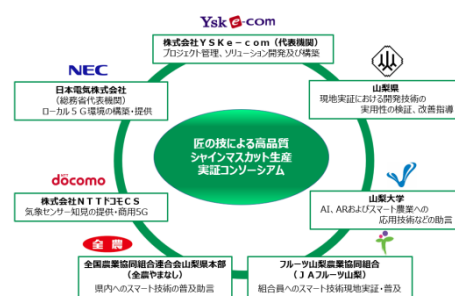
峡南地域観光振興による活性化につきましては、3/22（水）から本町では市川大門駅と甲斐岩間駅の2か所にシェアサイクルを配置して供用開始となりますが、こうしたことを皮切りに、昨年8月に始まった山梨県と峡南5町の推進体制「峡南ネ

「クスト共創会議」を進めていきたいと思っています。

次の農業の高収益化と面展開につきましては、新品種開発、機器やデーターの活用により高効率化、高収益化について研究し、県農政部、JAやまなし未来、農業委員会、農業生産法人アグリ甲斐など関係者と連携を密にして町内全域に面展開ができるよう研究してまいります。



峡南ネクスト共創会議



山梨県の高収益農業への取り組み

これらは事務分掌をもつ担当課だけでなく、縦割りではない横ぐしを刺した形で体制を作りながら推進していき、役場全体で取り組む体制を構築してまいります。

これらを推進していくために、町内経済の立て直しをしなければなりません。企業誘致という手段もありますが、企業側が求めるインフラ整備された広大な用地は少ないことからスモールビジネスの創業者誘致に県などの事業と連携して取り組みたいと考えております。また、昨年度立ち上げた「ラウンドテーブル市川三郷」では、町内企業に意識改革や行動変容によって業績を上げていただきたいと思います。行政としてその応援をしてまいります。

経済の語源であります「経世済民（けいせいさいみん）」、これは世を経（おさ）め、民を済（すく）うという意味で、つまり政策によって人々が幸せになるということです。現在の少子高齢化、人口減少社会において生産年齢人口が減ってくるという状況であります。この事態にどう対応していくかについては、一つは人の数が

減れば単価を上げていく必要があるということで一人ひとりの町民所得を上げることができないか、ということです。もう一つはリンケージ人口、関係者を増やしていくということがあります。町外に労働を含めたビジネス活動を行い観光などの手段により来訪者を増やし、町外貨を獲得していくことが重要だと考えています。

## 第1回ラウンドテーブル市川三郷



### ラウンドテーブル市川三郷



### オマーン大使館訪問

人材をどう育成していくかということについては、人を財産に変えていくということです。先ほど申し上げた通り、コンピューターシステムの導入（DX推進）と機構改革は何のためにするのかというと「町民福祉の向上」が大きな目標です。そのための働き手の働き方改革で業務量標準化により町民に向けるスペースを多く作ってもらいたいということです。

担い手人材については、町教育委員会が協力を推進している「ふるさとキャリア教育」を町として全面的にバックアップし、地域への誇りや愛着、郷土愛を抱いてもらいたいと考えております。自己有用感・自己肯定感の確立、グローバル人材育成とこのことにおいても教育委員会の取り組みを応援していきたいと考えております。

今後とも、町政策に関しましては機会あるごとに共有していただきたいと思っておりますのでよろしくご理解賜りますようお願いいたします。



# 市川三郷町 ふるさとキャリア教育

